

平成28年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準を維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成28年4月19日(火)

3 対象学年 女川小学校第6学年児童 48名 当日実施児童 44名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語，算数
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と県・全国との比較

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
宮城県	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼
全国	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼	10ポイント程度下回っている。 ▼

○国語，算数ともに，県及び全国平均正答率を下回る結果となった。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・特にB問題では，無回答率が県・全国平均よりも少なく，あきらめずに課題に向かう姿勢が見られる。

(課題)

- ・「話すこと・聞くこと」領域では，話し手の意図を捉えながら聞き，話の展開に沿って質問することや質問の意図を捉える力が不十分である。特に，目的に応じて，質問したいことを整理することが苦手である。
- ・「書くこと」領域では，目的や意図に応じて，グラフや表を基に，自分の考えを書く力が不十分である。
- ・「読むこと」領域では，目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することに課題がある。
- ・「言語事項」(漢字の読み書き，ローマ字の読み書き)では，全員正解の漢字の読みもあったが，書くことを中心に苦手としている。また，ローマ字の読み書きについては，全国平均よりも大きく下回り，無回答率高い。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」では，普段の話す聞く領域の授業を充実させることはもちろんのこと，普段の授業で教師・子供の話を注意深く聞かせることが重要である。
- ・「書くこと」では，国語の学習だけではなく，算数や社会などの学習で，資料を読み取る力を身に付けることが大切である。作文の問題については，週に一度程度，家庭学習で作文の課題を与えるなどして，作文力を高めることが必要である。その際，毎回ではなくてもテーマを与えることも考えられる。

- ・「読むこと」では、授業で、登場人物や筆者の心情についてノートに書く時間を十分設ける。また、読書量を増やすようにする。
- ・「言語事項」のローマ字学習は、3・4学年と限定的であり、時数も少ないので、他教科やコンピュータ学習で取り入れ慣れさせていくようにする。また、漢字については、小テストをこまめに行い、子供に自分の状態を把握させ、練習させる。

(2) 算数の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・A問題では、無回答率が0%と、国語同様、あきらめずに課題に向かう姿勢が見られる。

(課題)

- ・「数と計算」領域では、例えば $2.1 \div 0.3$ の商を、0.7と答えるなど、小数点の位置を間違える子供が多い。
- ・「量と測定」領域では、単位量あたりの求め方を苦手としている子供が多い。
- ・「図形」領域では、正方形に内接する円の半径や、直方体の面と面の位置関係など知識・理解についての設問に課題がある。
- ・「数量関係」領域では、割合を苦手としている子供が多い。また、グラフから必要な情報を読み取り答えることも苦手としている。

②指導改善のポイント

- ・「数と計算」では、計算の仕方を身に付けさせるとともに、見積もりを行う習慣を身に付けさせる。
- ・「量と測定」では、図や数直線図を使って考えられるようにする必要がある。
- ・「図形」では、性質や決まりなど自らの言葉でまとめさせるなど、授業のまとめの仕方を工夫していく。
- ・「数量関係」では、日常の場面を問題に取り入れ、イメージを持たせて問題に取り組みせたり、必要感を持たせたりする。また、グラフの見方をしっかりと理解できるよう繰り返し指導する。

7 生活習慣や学習環境に関する調査から

<生活習慣・意識調査について>

○新聞を毎日読む児童が県・全国よりも多い。

▲起床、就寝、朝食について、規則正しい生活習慣が身に付いている児童の割合が県・全国よりも低い。

▲ものごとをやり遂げて得る達成感や難しいことに挑戦する気持ちが、県・全国よりも低い。

▲「自分にはよいところがあると思うか」については、半数の児童が「どちらかというとなない」「ない」と答えており、自己肯定感が低い。

▲将来の夢や目標を持っている児童が、県・全国よりも低い。

<学習を阻害する要因について>

▲携帯電話やスマートフォンを使ったメール、インターネット、またテレビ視聴時間が県・全国平均よりも長い。

<学力向上を促進する要因について>

○学習塾（家庭教師も含む）に通っている児童が、県・全国と比較すると高い。

▲家庭学習の時間について、平日、土日とも県・全国と比較すると短い。

▲家庭で、予習・復習を全く行わない児童が県・全国よりも多い。

▲読書をする時間が10分以下、全くしない児童が多い。

<授業に関する調査について>

▲学校に行くことや友達に会うことを楽しみにしていない割合が多い。

▲国語や算数等の学習について、意欲的ではない児童が県・全国と比較すると多い。

▲発表したり、考えを書いたりすることを苦手としている児童が県・全国と比較すると多い。

8 今後の取組

(1) 学びの土台となる学習習慣の形成

- ①女川スタンダードの定着，宿題の提出の徹底，スキルタイムの継続的な取組など，学習に関する基本的な事柄を徹底的・継続的に指導し身に付けさせる。
- ②宿題として，計算練習や漢字練習，ローマ字の練習，音読を始め，日記・作文を書かせることにより，自分の考えを表現する学習に慣れさせる。さらに，読書や家読を推奨し，語彙力・表現力を育てていく。

(2) 学びを促進させる生活習慣の形成

- ①「はやね はやおき 朝ごはん」を合い言葉として，家庭への啓発を継続し，基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ②生活習慣チェックシートと連携した生活習慣の改善や，小中学校の連携の一つとして，「1210運動」に小学校でも取り組み，スマートフォンや携帯電話だけでなく，ゲームやインターネットの閲覧時間を制限するように家庭に啓発していく。

(3) 教科の学習指導

- ①ねらいを明確にし，自分の考えを書く，話す，聞く，メモを取る，説明するなどの言語活動を効果的に取り入れた授業を展開する。
- ②算数の学習では，「見積」の意識付けや図・数直線図を積極的に取り入れた授業を展開するとともに，社会科でもグラフの読み取りを丁寧に取り扱うなど，獲得した知識や技能を，教科の枠を超えて活用し，実生活との関連性を見出せるようにする。
- ③算数の学習では習熟度別グループを編成し，個に応じた効果的な支援を積み重ね，理解を深めるようにする。
- ③授業の終末に適用問題を解かせるとともに，業前や放課後のスキルタイムを活用し，反復練習を通して基本的な知識や技能を確実に身に付けさせる。また，教材として，全国学力・学習状況調査の問題を授業やスキルタイムで活用する。

(4) その他

- ①宮城県教育委員会から提示されている「5つの提言」を取り入れることにより，「自己有用感の形成」や「教科の学習指導の充実」，「家庭学習の習慣化」を図る。
- ②生涯学習課で作成した「女川小学校版人材バンク」や「出前授業」を活用することにより，地域の教育力を学校教育に生かすとともに，地域ぐるみで子供たちを育みながら，志教育の一貫としての役割も担っていただく。